

事務事業及び予算の執行状況

(令和4年度分「一部、令和5年度分を含む」)

静岡県立浜松みをつくし特別支援学校

目 次

1 事務事業の概要	1
2 事務執行の根拠法令調	17
3 学校施設の概要	18
4 在籍生徒調	20
5 入学志願者及び入学者数調	22
6 卒業生の動向調	23
7 生徒の状況	24
8 特別支援学校における生産物売払調	26
9 預金調	27
10 郵券等受払調	28
11 材料品受払調	28
12 委託料等歳出予算執行状況説別集計表	29
13 委託料に関する調	30
14 負担金支出調	33
15 土木工事調	34
16 公有財産調	35
17 事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	36
18 行政財産貸付・使用許可調	37
19 主要備品調	38
20 職員調	39
21 職員の年齢調	43
22 健康管理	44

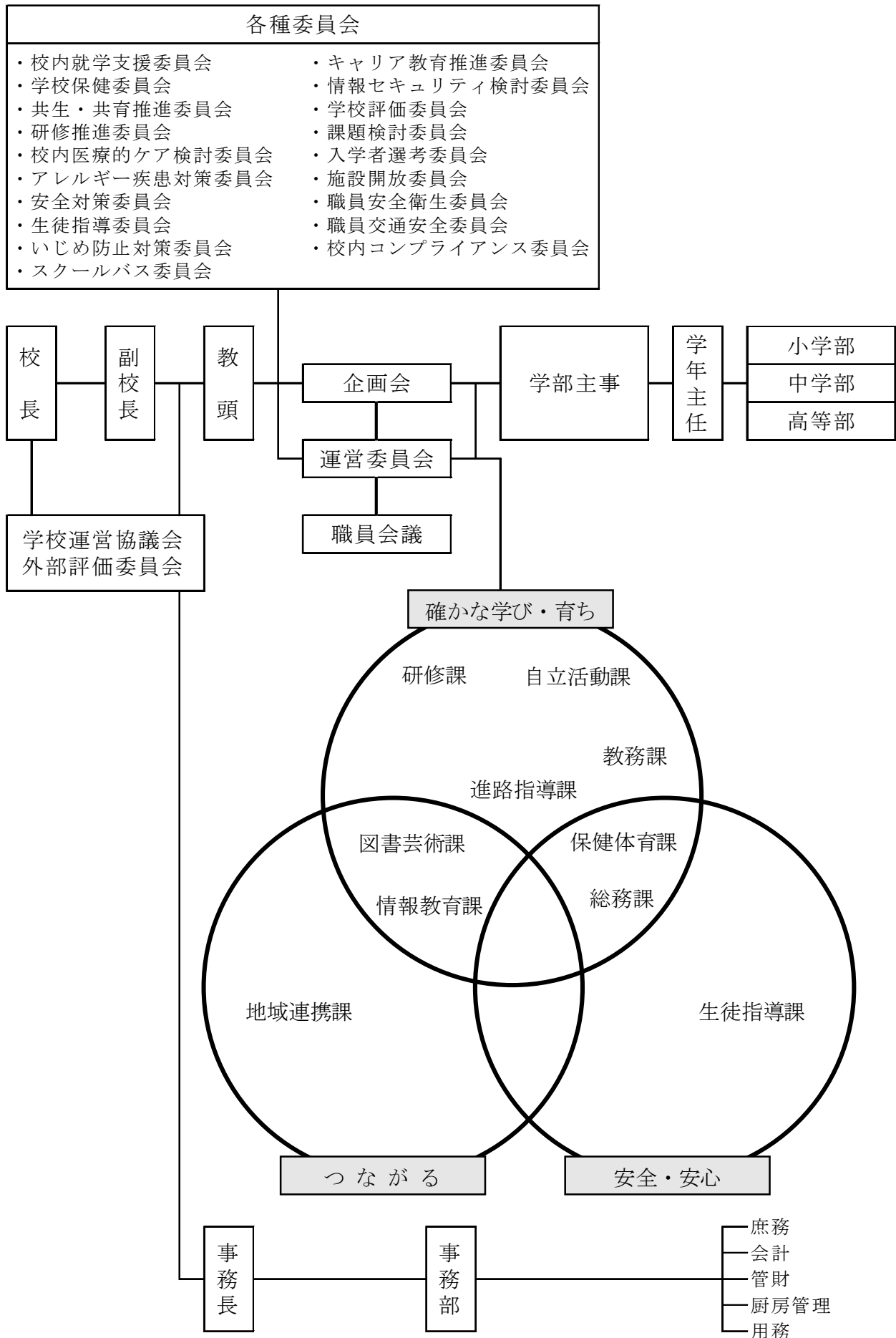
事務事業の概要

1 概況

(1) 学校の沿革

平成29年9月5日	教育委員会定例会にて浜松地区特別支援学校（仮称）の敷地を気賀高等学校跡地にすることを決定し報告
平成30年7月1日	浜松地区特別支援学校（仮称）設置検討委員会を設置
令和元年10月11日	浜松地区特別支援学校（仮称）建設工事着工
令和2年3月18日	県議会にて静岡県立浜松みをつくし特別支援学校として校名決定
令和2年4月1日	設置準備委員会を静岡県立浜北特別支援学校に設置
令和2年11月4日	静岡県立浜松みをつくし特別支援学校校章決定
令和3年3月10日	校舎建設工事完了
令和3年4月1日	静岡県立浜松みをつくし特別支援学校開校
令和3年4月9日	静岡県立浜松みをつくし特別支援学校開校式（児童生徒数175人）
令和3年4月13日	第1回入学式（小学部20人、中学部15人、高等部24人 入学）
令和4年3月17日	第1回卒業式（小学部14人、中学部29人 卒業）
令和4年4月11日	第2回入学式（小学部11人、中学部15人、高等部43人 入学）
令和5年3月17日	第2回卒業式（小学部5人、中学部23人 卒業）
令和5年4月10日	第3回入学式（小学部16人、中学部9人、高等部37人 入学）

(2) 組織図



2 目指す学校像

「共に学び 共に育ち 共に夢をつかむ」

(1) 【安全で安心な生活ができる学校】

- ア 多様な生き方と価値観を認め、互いの「夢」を大切にする教育の充実。
 <生徒指導、人権教育、道徳教育、防災教育、健康・安全教育、情報教育>
- イ 児童生徒にとって安全で安心な教育環境、学校体制の構築。
 <防災・防犯体制、安全管理体制、業務適正化、働き方改革、PTA>

(2) 【確かな学び・育ちがある学校】

- ア 児童生徒一人一人の「夢」に向かい、確かな成長を促し、発達を支える教育の実現。
 <12年間の教育課程、個別の指導計画、授業づくり、ICT教育、自立活動、キャリアステージに応じた研修>
- イ 児童生徒の個性に応じた自立と社会参加に向けた地域ぐるみの教育の推進
 <開かれた教育課程、学校運営協議会、組織的計画的なキャリア教育・進路指導、文化芸術的活動・生涯スポーツ、地域貢献、PTA>

(3) 【地域・社会とつながる学校】

- ア 共生社会の実現を目指し、地域とつながり、家庭・地域とともに歩む学校づくりの推進。
 <理解啓発(作業製品販売会及び展示会・作品展・学校だより・HPの充実・学校紹介・学校公開)、交流及び共同学習、地域を知る、地域の人とつながる>

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和4年度の取組目標への評価及び成果と課題

A：十分目標を達成できた B：おおむね目標を達成できた C：あまり目標を達成できなかった

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	児童生徒が、安心して心を豊かに生活することができる安全な教育環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検や通学指導等の実施により、校内外の危険な場所マップを作成する。 ・教室、備品等の管理場所、担当者を明確にして整理整頓に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人1か所以上の危険個所発見 ⇒94.3% ・指導體制や教育環境による事故0 ⇒98.9% 	A	<p>○毎月1回の安全点検や通学指導等の実施、夏季休業中に職員で校舎内やグラウンド、通路などの危険個所を点検することにより、危険個所を作成し職員間で共通認識ができた。また、できることから順次改善や対策を行っている。</p> <p>△危険回避のための安全点検、危険個所まとめシート等を活用した情報提供を行い、児童生徒や保護者とも共有していきたい。</p>
	事故や災害等に対する予防、準備、対応の体制を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア、アレルギー対応、発作時の対応等に対する手順を整え安全に実施する。 ・災害、事故、事件等の具体的 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健、医療的ケア、給食の重大事故発生0 ⇒100% ・PDCAサイクルを意識して、目的を明確にした各種訓練の実施 ⇒97.7% 	B	<p>○危機管理、安全体制(救急体制)のマニュアルを作成し職員間で周知した。生徒の発作による救急搬送があったが、マニュアルに従い対応できた。また、緊急対応訓練として、避難訓練(地震・火災)を行い、校舎からの避難の仕方</p>

	な場面を想定した危機管理マニュアルを作成する。			など、基本的な災害時における行動手順や教職員の役割について確認できた。 △災害は多種多様であり、自然災害や人的災害、緊急時対応など、様々な場面を想定した訓練を順次行っていきたい。また、それらをもとに、誰が見てもわかりやすい危機管理マニュアルの作成、見直しを行っていきたい。また、学校所在地区の自治会と協力して防災訓練を行うことを計画していきたい。
児童生徒が命を守り、心を育てる教育（人権教育・防災・防犯・安全教育・情報教育）を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自他を大切にするコミュニケーションの指導を実施する。 ・児童生徒が主体的に学ぶ防災・防犯・安全教育・情報教育を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で挨拶や感謝の言葉がよく聞かれたと答える保護者・教職員 100% ⇒100% ・自分が好き、自分の命や身体は大切だと答える児童生徒 100% ⇒96.6% 	B	<p>○社会生活を送る上でとても大切なあいさつに関して高等部の生徒会活動では、朝の昇降口にてあいさつ運動を実施した。コロナ過で大きな声での挨拶はできなかったが、会釈をしたり、手を上げて返事をしたりと個々に合った方法であいさつができた。また、上級生の挨拶が良い見本となるなど、学部間を超え良い交流となった。</p> <p>△相手を思いやる気持ちや、相手の立場にたった対応の大切さを学ぶ機会とするために、相手の良さを見つけて共有する授業づくりをしていきたい。</p>
教職員一人一人が人を大切にする倫理観と心の余裕をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや体罰を早期発見し、早い段階での指導を行う。 ・教職員一人一人が働き方改革の意識を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重大ないじめ事例 0 ・体罰 0 ⇒98.7% ・一人一業務精選、効率化の提案 ⇒86.3% ・「ワークライフバランスが取れている。」と答える教職員 100% ⇒86.3% 	B	<p>○人権チェックの中に児童生徒や職員に対しての「プラスの言葉掛け」の欄を設けることで、児童生徒への言葉掛けを見直し、プラスの言葉掛け（ありがとう・いいね・がんばれ・助かったよなど）を意識する職員が増えた。</p> <p>○教育活動ででたごみの処理方法や印刷室の使用法、必要物品の発注のタイミングなど、一人一人の教職員が業務効率化の意識を持てた。</p> <p>△今年度特休を取る職員が出たことから、個々のワークライフバランスも大切であるが、職員みんなが働きやすい環境をつくるための、働き方改革や年休等を取りやすい体制づくりを行っていききたい。</p>

	主体的に学びあうことで深い学びを実現する授業実践に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的に学びあう姿を求めて～地域を活用した授業づくり～」をテーマとした研修に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかるようになったこと」「できるようになったこと」と答える児童生徒 100% ⇒98.7% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「主体的に学びあう姿を求めて～地域を活用した授業づくり～」をテーマとした研修に取り組み、校内アドバイザーを活用した研究授業を行った。研究授業後に事後研修会を設定し、事後研修会で学んだことを自分の授業に活かしたり、授業を見直したりする機会となった。 △コロナ禍において実施できなかった、公開授業、研究授業においての外部助言者や参加者から、多くの客観的な意見をもらう機会を設け、「主体的で、対話的な、深い学び」に繋げていきたい。
イ	キャリア発達を促す小・中・高等部が一貫した教育課程を軸に、教育活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活年齢を基本とする障害特性や発達段階を考慮した教育課程を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けたい力及び時期ごとに児童生徒が向かうテーマを明確にした年間指導計画を作成 ⇒95.1% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアビジョン(試案)と各学部のキャリアシート(学部ごとの様式)を活用し児童生徒個々の目標設定に活用できた。 △自分の伸ばしたい強み(長所)や克服したい課題を示したキャリアパスポートを活用した個別の教育支援計画の目標から、児童生徒の将来の姿を見据えた段階的な指導につなげるためのキャリアビジョンを保護者とも共有していき、それらを個別の移行支援計画に繋げていく必要がある。
	多様な教育的ニーズに応えつつ、児童生徒一人一人の卒業後の姿をイメージした指導を充実するための専門性を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人一人の実態や障害特性に応じた指導・支援を明確にし、保護者と教員で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の成長について語ることができる教員 100% ・児童生徒が将来につながる力を身に付けたと答える保護者 100% ⇒83.9% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○自立活動指導計画作成のねらいや方法等を学ぶ研修を設け(特別支援教育の経験の短い教員対象)、児童生徒の障害特性や認知発達の段階をふまえ「個別の教育支援計画」を見直した。 ○産業現場等の実習に向けて目標の具現化と生徒への意識付け、事後の成果や課題などを保護者と共有できた。 △知的障害教育への専門性を高める研修を今後も続けるとともに、児童生徒が将来の社会自立に向けて、それぞれの発達段階に応じ身に付けたい力を保護者と共に取り組んでいく必要がある。

	<p>社会に関わられた教育課程の実現のために、地域住民、関係諸機関、施設、事業所等との役割を明確にした連携体制を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を実施し、学校と方向性を合わせて一体となって、児童生徒の成長にかかわる体制を作る。 ・校内外の支援体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の課題、地域の課題を明確にする。 ・学校の課題解決に必要なPTA組織を作る。 ・児童生徒への対応策が明確になったケース会議や支援会議 100% 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会において授業等の取り組みを説明し、それに対しての意見提案をいただき、学校周辺への校外学習に活かしたり、地域の作品展に児童生徒の作品を展示させてもらったり、近隣の施設を見学するなどことができた。 ○校内や関係施設を含めたケース会議や支援会議を通して、児童生徒への対応策を明確にし関係機関と共有することができた。 △学校の課題として、まだ地域に十分に認知されていないことから、学校所在地区だけでなく、周辺の地域に向けた情報発信(学校ホームページの充実・各種便りの発行及び地域回覧・児童生徒の作品展など)を学校とPTAが協力して取り組んでいく必要がある。
ウ	<p>地域の方々や地域の幼保・小・中・高校とのネットワークを広げ、共同学習の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を積極的に活用し、地域とつながり合う活動を実践する。 ・各種コンクールや作品展への応募や、作品展を通して、児童生徒の良さを知ってもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に活用できる地域資源を開拓(職場開拓含む) 1学年につき3か所以上 ⇒100% ・児童生徒一人一回以上の出品 ⇒100% 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作業学習で製品を、天竜浜名湖鉄道の駅構内やスーパーなどの店先において展示し、お客さんからアンケートにて意見や感想をいただき、製品づくりに生かすことができた。 ○学校周辺地域を題材とし、児童生徒の良さが表れるような作品づくりや学習発表会、地域の作品展への紹介・展示ができた。 △今年度各学年から校外学習等に行き、集めた地域資源に関する情報をまとめ、次年度の授業づくりで活用したり、地域産業への体験活動やボランティア活動などを行ったりしていきたい。また、本校児童生徒のことや教育活動について学校だより等を地域に向け情報発信をしていく必要がある。
	<p>交流及び共同学習による共生・共育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに学びがある交流及び共同学習についての体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施後のアンケートにより、「目的を達成できた。」と答える本校、相手校の評価 100% ⇒91.6% 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校間交流ではコロナ禍で直接会うことはできなかったが、リモートによる交流にて、画像を通してより相手の状況や気持ちを思いやりながら活動した交流となった。

					△学校間交流や児童生徒の居住地校交流は、実施しただけに留まらず、互いの存在や良さを共有するなどの本来の目的を達成するために互いに学びのある交流及び共同学習による共生・共育を実施できるように検討していきたい。
--	--	--	--	--	---

(2) 令和5年度の取組目標・達成方法・成果目標

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
	子供の人権を守る取組の推進	・教職員一人一人が自他の生き方や価値観を大切に する倫理観と心の余裕をもつ。	・全教職員が自分の働き方を見直したり、一緒に働くチーム内で価値観を共有したりすることで、働きがいを感じることができる。 ・全教員が児童生徒の良さに視点を置いた指導を常に実施する。	管理部 各学部 生徒指導課 総務課 事務部
ア	児童生徒が自他の命を守ることが できるための教育の 推進	・命の大切さをテーマにした授業を実践する。 ・感謝の言葉により自他を認め合う。	・児童生徒が自分の体や健康に関心をもち、命の大切さについて考える。 ・全教職員、児童生徒、保護者が互いに感謝の気持ちを伝え合い、他者を思いやる行動をする。	生徒指導課 保健体育課 各学部
	事故や災害等の学校安全に対する予防、準備、学校再開計画の体制の整備	・全教職員や保護者が危機管理マニュアルを周知したうえで、自分で考えて行動する。	・全教職員と保護者が有事の際のイメージをもち、児童生徒のために今必要だと思う行動を起こす。	生徒指導課 保健体育課 総務課 各学部 事務部
	主体的に学びあう ことで深い学びを 実現する授業実践	・児童生徒が主体となる授業の在り方について明らかにする。	・児童生徒が何を学んだか、何ができるようになったかに着目した授業を実践する。	研修課 教務課 各学部
イ	社会に開かれた教育課程を実現し、役割を明確にした授業づくり	・教育課程全体計画をもとに授業を実践し、計画の見直しを行う。	・指導の成果を学部や学年で共有し、「みをつくシート」の見直し、作成を行う。 ・地域貢献など地域を巻き込んだ授業（活動）を実践し、「みをつくシート」に反映する。	研修課 図書芸術課 保健体育課 各学部

	キャリア発達を促す一貫した教育課程を軸にした教育活動の充実	・家庭を巻き込んだキャリア教育を実践する。	・保護者が自分の子供の将来の姿をイメージし、キャリアパスポートの取り組みなど今できることに家庭でも取り組む。	教務課 自立活動課 総務課 進路指導課 各学部
	児童生徒一人一人の卒業後の姿をイメージした指導を充実するための専門性の向上	・児童生徒一人一人の実態やニーズに合わせてICT等を活用し指導の充実を図る。	・発達段階や障害特性を踏まえた専門的で最新の指導をチームで考え実践する。	研修課 自立活動課 情報教育課 進路指導課 各学部
ウ	共同学習の充実につながる児童生徒の居住地（学区）とのネットワークの構築	・学区内の地域の方々や園・校とのネットワークを作る。	・互いに学び合える交流籍を活用した共同学習を計画、実施する。 ・本校の良さや特色を地域に向けてアピールするHPの作成。	地域連携課 情報教育課 各学部
	学校所在地域における学校活動への協力体制の構築	・学校所在地域の人とのつながりを意識した活動を計画的に実施する。	・本校の教育活動への協力者 1000 人。	地域連携課 図書芸術課 管理職 各学部

4 監査対象期間における特色ある取組

取組概要	成果及び課題
<p>1 安心安全な学校体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や引き渡し訓練を実施して防災・防犯時の対応を教職員、児童生徒及び保護者で共有する。 ・火災や地震における避難経路について校内外の危険箇所の確認をする。 ・インカムを活用した初動体制作りと災害想定訓練時に活用をする。 ・ヒヤリハットや事故報告の事例を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震や火災における基本的な避難経路や経路上の学校設備の使い方を児童生徒職員で確認した。様々な災害を想定して対応を検討し、訓練に取り組んでいく中で、危機管理マニュアルの内容の充実を図っている。 ・火災と地震の際の避難経路について校内外の危険箇所を共有した。危険箇所として挙げられたところについて、安全な避難経路の確保のために補修や修繕の対応をしている。 ・インカムを活用することで、児童生徒の病気や怪我等に早期対応できた。避難訓練時に全校放送の代わりにインカムを活用して情報共有にかかる時間短縮を図っている。 ・ヒヤリハットや怪我が起きた根本的な課題を見つけ、学校全体で再発防止につなげた。 ・救急救命法講習の実施

- ・人権アンケートや不祥事根絶研修、いじめ・体罰アンケートを実施し、一人一人の人権意識を高める。

- ・業務の適正化を図る。

いじめにつながる事案について、その都度、状況把握、情報共有や対応検討をした。

- ・少人数でのグループワークを通して、不祥事を自分事としてとらえるようになり、不祥事根絶の意識向上につながっている。

個々へのアンケートや学年グループや同世代のグループでテーマに沿って話し合う機会をつくり、人権意識や教職員としての自覚、OJTの意識が高めている。

- ・水曜日は17時30分、他の曜日は19時を全教職員の退勤上限時刻として教職員に周知された。
- ・会議は一時間以内で終了。そのために資料の事前配布、もしくはIT機器を活用することで会議資料をデータで共有し、会議前に共通理解を図っている。
- ・保護者面談の希望日や保護者学校アンケート、教職員の学校評価アンケートなどをCOCOOやGoogleフォームを使って実施。集計を素早く行い、意見などの反映につながっている。
- ・学部ごと月に一回の定時退勤日を設定している。業務の偏りなどを共有し、対応を学校組織として考えていくこととしている。教職員同士で自己の働き方を見直し、互いにフィードバックする機会を作っている。(働きがいアンケート等) 会議を精選し、OJTの活用や学部、学年間の連携、協力により、ワークライフバランスを図っている。
- ・メンタルヘルスの可能性がある職員への対応として職場組織の中で環境の配慮をしてきた。
随時、管理職も声を掛け、必要に応じて面接をしている。現在、特休を取っている職員はいない。

2 児童生徒が主体的に学ぶための指導の充実

- ・児童生徒、教職員、保護者等が確かな成長を感じられる教育活動を進める。
- ・児童生徒一人一人の夢を大切にしたいキャリア教育の実践

- ・児童生徒にとって魅力ある地域資源を活用することで、主体的な学びの姿を引き出す授業を実践し、各学年1回以上の研究授業をとおして、授業改善に取り組んだ。
- ・キャリアアップシート、キャリアビジョンを活用し、児童生徒の個々の目標設定に生かしている。児童生徒自身が自分の伸ばしたい強み(長所)や克服したい課題を目標に、主体的な学びや自己実現につながるシートなどの活用の仕方を今後検討し、取り組んでいる。

<p>3 地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域と共にある学校」をテーマにした学校運営協議会の実施。 ・地域資源の活用として、作業学習の外部講師や資材の提供、作業製品の展示や販売会等を実施。 ・交流及び共同学習の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2か月に1回全校での児童生徒会活動（代表委員会）の実施。毎週水曜5限目を小中学部、高等部すべて特別活動とし、全学部そろって代表委員会を実施している。高等部生徒会が中心となり、あいさつ運動の計画や学校のきまりなどを全校に伝え、よりよい学校づくりを全児童生徒で実践している。 ・新設校として、今後つながっていききたい、協力をしてもらいたいと地域の方を運営協議委員として依頼し、継続して委員を務めていただいた。 ・学校運営協議会を年間3回開催し、さらに地域に開かれた教育課程について検討している。また、「安心・安全」な教育環境を目指した議題として防災マニュアルの検討を議題としていく。 ・地域資源の活用をとおして、地域の方に本校や本校の児童生徒、障害のある人たちへの理解啓発ができた。地域からの協力、理解をいただき、作業製品の販売や展示、図工・美術作品展示を実施している。特に、作業学習については、地域の意見を製品づくりに生かそうと各所で製品展示や販売をとおしてアンケートを行っている。また、地域の店舗から製品作りに必要な資材提供の協力を受け、製品作りに生かしている。 ・保護者による読み聞かせボランティアや図書ボランティアの活用を実施している。 ・学校行事やボランティア募集等の便りを回覧板でお知らせしている。 ・気賀小学校、細江中学校、浜松湖北高校との学校間交流を実施した。感染症対策に配慮し、交流の方法や時期を工夫したことで、互いの学校にとって学びの多い交流となり、双方の交流目的が達成できた。Zoomによる交流や訪問交流を行っている。本校の学習発表会の作品展示に、交流校の作品を借りて展示し、作品の交流も行っている。 ・交流籍を活用した交流及び共同学習についても、事前の打ち合わせを実施し、双方で感染症対策や方法について確認した。事後のアンケートでは、交流への満足度も高く、個に応じた目標達成が進んでいる。
---	--

5 教職員について

(1) 令和4年度異動状況

区分	本 務 職 員											臨 時 ・ 非 常 勤 職 員							合 計		
	教 育 職 員						行 政 職 員					本 務 計	教 諭 (任)	教 諭 (臨)	非 常 勤 講 師	非 常 勤 嘱 託 員	非 常 勤 労 務 職 員	学 校 医 ・ 薬 剂 師		健 康 管 理 医	臨 時 等 計
	校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	栄 養 教 諭	小 計	事 務 長	主 査	主 任	小 計										
転出				3			3	1			1	4	1							1	5
退職							0				0	0	2	4	2	1	2	1		12	12
再任用 (転出・退職)				1			1				0	1								0	1
転入			1	11			12	1			1	13	1							1	14
新任				7			7				0	7	1	4	1			1		7	14
再任用 (新任)							0				0	0								0	0
差引増減	0	0	1	14	0	0	15	0	0	0	0	15	△ 1	0	△ 1	△ 1	△ 2	0	0	△ 5	10

(2) 現員数

(令和5年9月30日現在)

区分	本 務 職 員											臨 時 ・ 非 常 勤 職 員							合 計		
	教 育 職 員						行 政 職 員					本 務 者 計	教 諭 (任)	教 諭 (臨)	非 常 勤 講 師	非 常 勤 嘱 託 員	非 常 勤 労 務 職 員	学 校 医 ・ 薬 剂 師		健 康 管 理 医	臨 時 等 計
	校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	栄 養 教 諭	小 計	事 務 長	主 査	主 任	小 計										
男		1	1	32			34			1	1	35	1	6			3	4	1	15	50
女	1			57	2	1	61	1	2		3	64	5	7	2	1	7	2		24	88
計	1	1	1	89	2	1	95	1	2	1	4	99	6	13	2	1	10	6	1	39	138

(3) 健康管理について

【令和4年度】

ア 健康管理の推進

(ア) 生活習慣病健診、指定年齢検診、人間ドック等の完全実施を図り、事後措置を徹底させている。また、情報機器作業従事者健診については、全教職員に作業区分調査を行って一次検診対象者を抽出し、紙面による調査を行った。

(イ) 職員安全衛生委員会を毎月開催し、健康管理医の意見をいただきながら、教職員の心身の健康状況等について討議している。

イ ストレス、メンタルヘルス関連について

(ア) 職員安全衛生委員会では、教職員の状況を把握するとともに、必要に応じて個別面談を実施するなど、教職員のメンタルの維持、向上に努めている。

(イ) 毎週水曜日を定時退勤日と定め、17時30分施錠を実施している。

【令和5年度】

ア 健康管理の推進

- (ア) 生活習慣病健診、指定年齢検診、人間ドック等の完全実施を図り、事後措置を徹底させている。また、情報機器作業従事者健診については、全教職員に作業区分調査を行って一次検診対象者を抽出し、紙面による調査を行った。
- (イ) 職員安全衛生委員会を毎月開催し、健康管理医の意見をいただきながら、教職員の心身の健康状況等について討議している。

イ ストレス、メンタルヘルス関連について

- (ア) 職員安全衛生委員会では、教職員の状況を把握するとともに、必要に応じて個別面談を実施するなど、教職員のメンタルの維持、向上に努めている。
- (イ) 毎週水曜日を定時退勤日と定め、17時30分施錠を実施している。
- (ウ) 公立学校共済組合の職場の健康づくり支援事業を活用し、ハンドマッサージや自力整体、メンタルヘルスの講習会を実施した。

(4) 教職員の研修について

研究テーマを「主体的に学びあう姿を求めて～地域を活用した授業づくり～」とする。

目的	内容	成果と課題
授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部（小・中・高）に研究班を組織し、各班で具体的な研究課題を設定して、学校経営と研修の一体化を基に授業実践研究を中心に進める。 ①PDCA サイクルを活用した授業づくり、授業改善を行い、授業づくりのスタイルをつくる。 ①地域を活用しながら児童生徒の主体的に活動に取り組む姿を引き出す授業づくりをする。 ②授業における地域とのつながりをつくる。 ②単元終了後の児童・生徒の姿を想定して活動内容、支援方法などを検討する。 ・各研究班で9月以降に研究授業を行い、授業者で授業の振り返りをしたり、校内アドバイザーの指導、助言を受けたりする。 ・各研究班で研究授業を行い、授業や、参観者で授業の振り返りをしたり、校内アドバイザー、外部助言者の指 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合教育センターの特任教官や教育主査の指導を受け、本校の研修について評価いただいたり、授業における評価についての理解を深めたりすることができた。 引き続き、各学年、学習グループの事後研修で児童生徒の主体的な学びについて検討した。授業を見直し、授業改善をすることができている。 また、日々の授業でPDCA サイクルを活用して授業づくり、授業改善を行うことができた。授業改善を進めることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりの充実を図り、児童生徒一人一人の確かな学びの姿を引き出していく。 ・令和4年度は、各学年の学習グループで地域資源を開拓したり、活用したりして児童生徒の主体的な学びにつなげることができている。単元終了後の姿を想定して、その姿に近づくように単元途中で授業を見直し、

	<p>導、助言を受けたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月に授業支援訪問を実施し、中学部の作業学習を中心に指導いただく。 ・12月に授業支援訪問を実施し、小学部3年の生活単元学習を中心に指導していただく。 <p>① 学年、グループを超えて授業を見合う機会を設定したり、公開授業研究会を行ったりする。</p> <p>② 校内アドバイザーに授業の指導を受けたり、外部助言者から助言をもらったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各研究班で研究授業を行い、授業者や参観者で授業の振り返りをしたり、校内アドバイザーの指導、助言を受けたりする。 ・10月に公開授業研究会を行い、授業者や参観者、参観者で授業の振り返りをしたり、外部助言者の指導、助言を受けたりする。 <p>③ 授業設計診断の4項目を活用した授業づくりを行い、PDCAサイクルを用いて改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を学ぶかが分かるような「解決したい課題や問い」を設定した授業を行う。 ・他学年・他学部とのつながりを考えた年間指導計画の作成や、見直しをする。 <p>④ 授業における地域とのつながりづくりをする。</p>	<p>授業改善をすることができた。授業改善を進めることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりの充実を図り、児童生徒一人一人の確かな学びの姿を引き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合教育センターの教育主査の本校の研修に対する評価や授業についての助言などを、職員みんなで共有していく。 ・総合教育センターの教育主査や特任指導教官に本校の研修に対する評価や、子どもの学びの想定と見取りについての話をしていただいた。これを受け、授業づくりや授業改善をしている。 ・学年、グループを超えて公開授業、研究授業を行い、参観者から意見を聞いたり、アドバイザーの助言を受けたりして授業改善に努めている。参観する機会が増え、他学部の授業について知ることができている。 ・児童生徒が「何ができるようになったか」を一覧にした「みをつくシート」を作成している。 ・「みをつくシート」を活用して、何を学ぶかが分かるような授業ができるように、年間指導計画を見直したり活動内容を考えたりして、学習が積み重なるようにしたい。 ・地域資源の開拓や、活用して児童生徒の主体的な学びにつなげることができている。
<p>専門性の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動課、進路指導課などいろいろな分掌の教員が講師を担当し、様々な分野の基礎・基本的な研修を定期的実施する。 ・「研修課だより」を発行し、授業づくりに関する情報の共有を図る。 ・初任者研修、5年経験者研修、10年 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は、書類の書き方、応用行動分析など、様々な事柄について学び、書類の作成、児童・生徒への支援等に役立てる。 ・年次研修の講義を受けた教員は基礎的な知識を深めることができた。講師を務めた教員は、資料を作成した

	<p>経験者研修を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修、2年経験者研修、5年経験者研修、10年経験者研修を推進する。 ・校外研修の報告の場を設定する。 ・自立活動課、進路指導課などいろいろな分掌の教員が講師を担当し、様々な分野の基礎・基本的な研修を定期的実施する。 ・「研修課だより」を発行し、授業づくりに関する情報の共有を図る。 ・初任者研修、2年次研修、5年次研修、中堅教諭等資質向上研修を推進する。 ・校外研修の報告の場を設定する。 	<p>り、話したいことをまとめたりするなど自身のキャリアアップにつながっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部会で校外研修の報告を行い、研修で学んだことを学部の職員で共有することができた。各自が指導に取り入れていく。 ・進路について、自立活動の視点での障害理解についてなどについて他様々な分野の研修を行い、参加者の知識を深めることができた。講師を務めた教員も自身のキャリアアップにつながっている。 ・年次研修を受けた教員はそれぞれのキャリアに応じて知識、理解を深めている。 ・校内外の研修で学んだことを多くの職員で共有し、指導に役立てていきたい。
<p>危機管理意識の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権について県の伝達研修を実施したり、人権アンケートをとったりして、いじめや体罰防止等に努める。 ・不祥事根絶研修を毎月実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間での協力体制やありのままの児童生徒の状況を受け入れる体制が整い、学校全体で人権について考えるようになってきた。 ・小グループで話し合う機会を多く持ち、不祥事を自分事として考える職員が増えるよう取り組んでいる。

6 防災対策について

本校の立地条件として、校舎の被害想定は低いと考えられるが、ハザードマップより学校敷地内一部の浸水や学校周辺地域の液状化等の被害が想定される。今年度は、特に昨年見直した危機管理マニュアルを周知したうえで、有事の際のイメージをもち、児童生徒のために今必要だと思う行動を起こすことができるように、マニュアルを活用して分掌や自分の役割について話し合う機会の設定、安全点検、ヒヤリハットの共有、安全教育の充実に向けた取り組みを行っている。今後は災害対策本部体制について課題や改善策について検討しながら大規模地震に備えるため総合的な地震対策を整える。合わせて、児童生徒の生命や身体の安全を確保し、施設設備の保全を図るため、次の基本方針で取り組んでいる。

- (1) 校長を総指揮とする安全対策委員会を設置し、防災体制に関する改善を図る。
- (2) 浜松市地域防災計画における本校の役割について確認し、浜松市北区危機管理課との連携を密にする。

- (3) P T A（関係委員）との協力、連携体制の整備。
- (4) 非常防災設備の整備や定期点検を行う。
- (5) 児童生徒の生命や身体の安全確保を図るため、状況に応じた避難誘導対策を十分に検討し、日頃から訓練を積み重ねる。児童生徒の在校時における南海トラフ地震の臨時情報、地震発生時等に備えた防災避難訓練を計画的に実施する。

ア 令和4年度の実施内容

(ア) 目標

- ・児童生徒が安全安心に学校生活を送るために必要な「自他の命を守る行動をとる」ための防災教育や安全点検、施設管理を推進する。
- ・全教職員が、教育公務員として大規模災害発生時に自分の動きを具体的に想定して行動できるように、地域や家庭、行政（防災機関等）と連携しながら、危機管理マニュアルをより活用できるように改善する。

(イ) 実施内容

実施日	項目【想定】	訓練内容	対象者
5月17日	第1回避難訓練【地震】	避難経路確認 起震車体験	児童生徒教職員
8月1日	防災研修	災害時の初動初期場面の動き、役割確認 災害時の係分担の業務内容確認、係別備品確認 保護者への引き渡し	教職員
9月1日	引き渡し訓練	避難経路確認、消火訓練	児童生徒教職員保護者
11月1日	第2回避難訓練【火災】		児童生徒教職員
1月25日	第3回避難訓練【地震】	事前予告なし訓練	児童生徒教職員

(ウ) 成果と課題

各訓練等においては、事前に避難経路やリスクについて各学年で考える機会を設けることで具体的な役割やリスクについて共有し、児童生徒に実態を考えた事前学習や避難誘導を行うことができた。また、安全点検では複数の教員で実施することにより、意見交換しながら安全への意識を持ち続けることができた。今後は南海トラフ地震・異常気象等に伴う児童生徒の在校時や登下校、スクールバス運行中を含めた、より実効性があり、目的を明確にした訓練の実施や防災計画の策定、学校体制の確立が課題である。

イ 令和5年度の実施内容

(ア) 目標

- ・児童生徒が安全安心に学校生活を送るために必要な「自他の命を守る行動をとることが出来る」ための防災教育や安全点検、施設管理を推進する。
- ・全教職員や保護者が危機管理マニュアルを周知したうえで、事故や災害等の学校安全に対する予防、準備、学校再開計画の体制を整備する。

(イ) 実施(予定)内容

実施日	項目【想定】	訓練内容	対象者
5月11日	第1回避難訓練【地震】	避難経路確認	児童生徒教職員
5月29日	第2回避難訓練 【安否確認】【負傷者救出訓練】(保体課と連携)	負傷者救出訓練	教職員
7月28日	防災研修	災害時の初動初期場面の自分の動き、分掌の役割確認	
9月1日	引き渡し訓練	保護者への引き渡し	新入生、転入生
10月30日	第3回避難訓練【火災】	避難経路確認、初期消火	児童生徒教職員
1月25日	第4回避難訓練【地震】	事前予告なし訓練	児童生徒教職員

(ウ) 成果と課題

各訓練、研修等において、実際的な想定をもとに避難経路やリスク、役割について各学年、分掌間でリスクコミュニケーションを図る機会を設けたことで、教員間の危機管理意識の向上につながった。各種訓練では、より具体的にイメージして事前学習や避難誘導を行うことができた。安全点検では、点検する際の観点を具体的に示すように改善した。目視だけの点検に留まらず、打音・振動・負荷・作動等、実効性のある点検により、危険箇所の把握と教育環境の整備と改善に努めることができた。今後は、特に防災研修で課題にあがった災害対策本部での初動の役割分担の明確化、情報発信、情報把握・整理の方法などを早急に検討し、改善を目指しながら、南海トラフ地震・異常気象等の災害に対してより全体としての統一のとれた組織対応を行っていく。

7 学校開放について

地域に開かれた学校づくりの一環として、教育活動に支障のない範囲で学校の施設・設備を地域に開放していく。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和4年度は実績なし。

年度	施設名	利用日数	利用人員	主な利用内容	利用者負担金 (光熱水費)
令和5年度 (9/30現在)	体育館	8日	199人	レクリエーション・防災キャンプ	1,593円

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関する こと	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、第74条、第76条、第77条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 学校給食法（第4条） 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律 いじめ防止対策推進法（第8条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学支援委員会規則 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領
2 学校の管理・運営 に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県立学校処務規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第1条、第2条、第3条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費補助金交付要綱 要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱 静岡県情報公開条例施行規則 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第17条） 社会教育法（第43条、第45条、第47条、第48条）

学 校 施 設 の 概 要

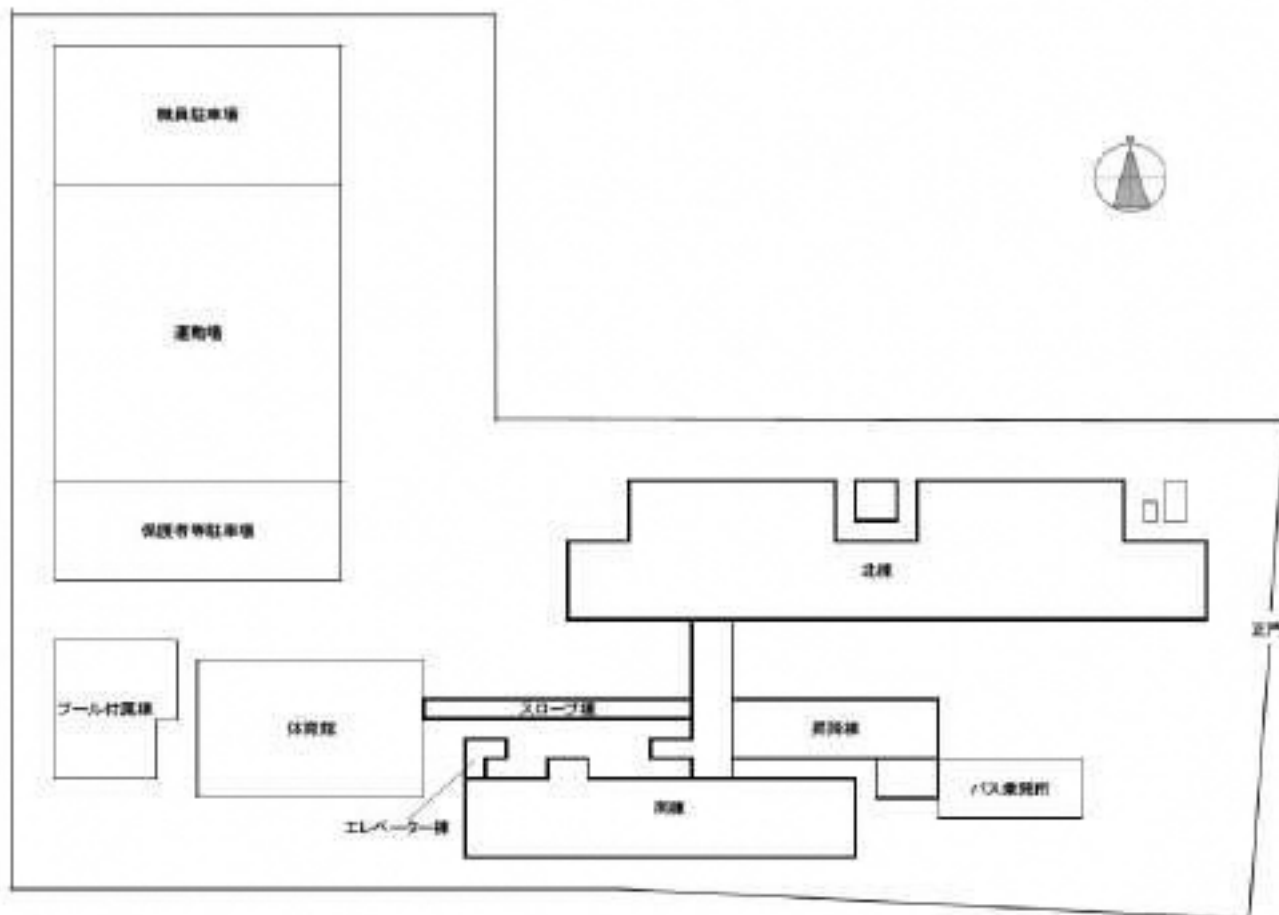
1 面積及び所有区分

(令和5年9月30日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県有 m ²	国有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民有 m ²	
学 校 敷 地	34,844.32	34,844.32					
内 訳	校舎敷地	10,310.15	10,310.15				
	運動場敷地	10,688.80	10,688.80				
	その他の敷地	13,845.37	13,845.37				
校 舎	建 2,614.56	2,614.56					
	延 9,992.11	9,992.11					
体 育 館	建 1,483.46	1,483.46					
	延 1,494.18	1,494.18					
その他の建物	建 200.51	200.51					
	延 180.24	180.24					
プ ー ル	2 個	2 個					大25m×8m 4 コース 小10m×5m

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	34,844.32 m ²	9,992.11 m ²	10,688.80 m ²
県平均	18,814.78 m ²	6,914.52 m ²	5,244.39 m ²

在 籍 生 徒 調

(令和5年9月30日現在)

学年	区 分	小学部			中学部			高等部			
		男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年	入学者	13	3	16	4	5	9	48	25	12	37
	増加 減少								1		1
	現在	13	3	16	4	5	9		26	12	38
2年	入学者	9	2	11	9	6	15	48	33	10	43
	増加 減少								1		1
	2年時当初	9	2	11	9	6	15		32	10	42
	増加 減少				1		1		3	2	5
現在	9	2	11	10	6	16		35	12	47	
3年	入学者	18	2	20	12	3	15	30	22	2	24
	増加 減少									1	1
									1		1
	2年時当初	18	2	20	12	3	15		21	3	24
	増加 減少			1	1	1	1	2	1		1
	3年時当初	18	3	21	13	4	17		22	3	25
	増加 減少		1	1	2	1		1	5		5
					1		1				
現在	19	4	23	13	4	17		27	3	30	
4年	入学者										
	増加 減少	14	3	17							
	2年時当初	14	3	17							
	増加 減少										
	3年時当初	14	3	17							
	増加 減少	1	1	2							
	4年時当初	15	4	19							
増加 減少			2	2							
現在	15	6	21								

学年	区 分	小学部			中学部			高等部					
		男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計		
5年	入学者												
	增加												
	減少												
	2年時当初												
	增加	11	2	13									
	減少												
	3年時当初	11	2	13									
	增加												
	減少	1		1									
	4年時当初	10	2	12									
	增加	1		1									
	減少												
	5年時当初	11	2	13									
	增加												
減少													
現 在	11	2	13										
6年	入学者												
	增加												
	減少												
	2年時当初												
	增加												
	減少												
	3年時当初												
	增加	11	2	13									
	減少												
	4年時当初	11	2	13									
	增加		1	1									
	減少												
	5年時当初	11	3	14									
	增加												
減少													
6年時当初	11	3	14										
增加	1		1										
減少													
現 在	12	3	15										
計		79	20	99	27	15	42	126	88	27	115		

入学志願者及び入学者数調

(高等部)

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
学 科 別	普通科	普通科	普通科		
生徒定員(A)	30	48	48		
募集者数(B)	30	48	48		
志願者数	男	22 (0)	33 (0)	26 (0)	
	女	2 (0)	10 (0)	12 (0)	
	計(C)	24 (0)	43 (0)	38 (0)	
受検者数	男	22 (0)	33 (0)	26 (0)	
	女	2 (0)	10 (0)	12 (0)	
	計(D)	24 (0)	43 (0)	38 (0)	
合格者数	男	22 (0)	33 (0)	26 (0)	
	女	2 (0)	10 (0)	12 (0)	
	計(E)	24 (0)	43 (0)	38 (0)	
志願倍率(C)／(B)	0.80	0.90	0.79		
受検倍率(D)／(B)	0.80	0.90	0.79		
入学者数	男	22	33	25	
	女	2	10	12	
	計(F)	24	43	37	
充足率(F)／(A)	0.80	0.90	0.77		

卒業生の動向調

区分		中学部	高等部		合計
			本科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				0
	定時制				0
	通信制				0
特別支援学校高等部		22			22
その他高等学校等					0
大学等	大学(学部)				0
	短期大学(本科)				0
	大学・短大等の信教育学部等				0
	その他大学等				0
特別支援学校高等部専攻科					0
専修学校(専門課程)					0
専修学校(一般課程)・各種学校					0
公共職業能力開発施設等					0
就 職					0
上記以外 ※		1			1
不詳・死亡					0
計(卒業者総計)		23	0	0	23

(再掲) 「上記以外 ※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区分		中学部	高等部		合計
			本科	専攻科	
児童福祉施設					0
障害者支援施設					0
(うち就労系支援事業利用者)					0
医療機関					0
計		0	0	0	0

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和5年9月30日現在) (単位:人)

市町名	浜松市					合計
生徒数	256					256
構成比%	100%					100%

(2) 通学方法 (令和5年9月30日現在) (単位:人)

区分	S B	自家用車	徒歩	自転車	公共交通機関	合計
生徒数	112	84	2	13	45	256
構成比%	43.8%	32.8%	0.8%	5.1%	17.5%	100%

(3) 訪問教育の状況 (令和5年9月30日現在) (単位:人)

訪問教員等		市町				計
小・ 中学部	教諭	小学部				
	講師	中学部				
高等部	教諭	高等部				
	講師					
計		計				

2 部(クラブ)の加入状況

(中学部) なし

(高等部) (令和5年9月30日現在) (単位:人)

区分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		1	1		2
男子	1年	1	0	25	26
	2年	5	7	23	35
	3年	3	1	23	27
	計(A)	9	8	71	88
	構成比	10.2%	9.1%	80.7%	100%
女子	1年	0	1	11	12
	2年	2	0	10	12
	3年	0	0	3	3
	計(A)	2	1	24	27
	構成比	7.4%	3.7%	88.9%	100%
合計	合計(A+B)	11	9	95	115
	構成比	9.6%	7.8%	82.6%	100%

3 障害別児童生徒数

(令和5年9月30日現在)

(単位：人)

区 分		1年 (2歳)	2年 (3歳)	3年 (4歳)	4年 (5歳)	5年	6年	合計	学級 数
幼稚園部	単一障害							0	
	-								
	-								
	合計	0	0	0	0			0	0
小学部	単一障害	12	7	16	13	10	11	69	14
	重複障害	4	4	7	8	3	4	30	13
	肢体重複							0	
	合計	16	11	23	21	13	15	99	27
中学部	単一障害	9	8	15				32	7
	重複障害	0	8	2				10	4
	肢体重複							0	
	合計	9	16	17				42	11
高等部	単一障害	35	44	27				106	13
	重複障害	3	3	3				9	3
	肢体重複							0	
	合計	38	47	30				115	16

4 起因疾患別児童生徒数

(令和5年9月30日現在)

(単位：人)

区分	□□□	□□□	□□□	□□□	□□□	計
幼稚園部						0
小学部	11	64	22	0	2	99
中学部	8	25	8	1	0	42
高等部	45	49	18	0	3	115
訪 問						0
計	64	138	48	1	5	256

特別支援学校における生産物売払調

令和5年度

(令和5年9月30日現在)

	主な生産品目			
令和5年度	<木工班>	メモスタンド、レンコンコースター、寄木コースター、ティッシュケース、寄木ペン立て		
	<手工芸班>	メモ帳、四角ボックス、リース(大)、リース(小)、コースター、バスボム		
	<縫製班>	トートバッグ(小)、トートバッグ(中)、トートバッグ(大)、コースター		
	<レザー班>	ペンケース、コインケース、パスケース、ストラップ、ブックバンド		
	<農園芸班>	マリーゴールド苗、夏野菜セット		
	①売払金額	59,100円	②令和4年度との差額	△69,500円
令和4年度	<木工班>	ふじさんマグネット、多機能トレイ、着火剤、ウッドレジンキーホルダー、ウッドパズルコースター、木製メモスタンド、フォトスタンド、ブックスタンド、ウッドマグネット、コースター、万年カレンダー、木琴、プランターカバー		
	<手工芸班>	ティッシュケース、メモ帳、バスボム、スイッチカバー、四角かご、小物入れ、バスケット、たて編みのかご、ペン立て		
	<縫製班>	巾着、ミニトートバッグ、箸袋、ファスナーポーチ、ペットボトルホルダー、ランチョンマット		
	<農園芸班>	夏野菜セット、マリーゴールド苗、サツマイモ、切り干し大根、乾燥唐辛子、クリサンセマム苗、青菜・切り干し大根		
	①売払金額	128,600円	②令和3年度との差額	52,700円
令和3年度	<木工班>	ふじさんマグネット、印鑑ケース、多機能トレイ、ペンケース、なべしき、マスクケース		
	<手工芸班>	オーナメント、小物入れ		
	<縫製班>	エコバッグ、トートバッグ、マスクポーチ、ペンケース		
	<農園芸班>	ビオラ、大根		
	①売払金額	75,900円	②令和2年度との差額	—円

預 金 調

(令和 5 年 9 月 30 日 現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残 高 円	摘 要
浜松磐田 信用金庫 中川支店	無利息型 普通預金	2108787	静岡県立浜松みをつくし特別支援学校 資金前渡者 白柳 恵美	10,000	給与等・交際費
静岡銀行 引佐支店	無利息型 普通預金	0295871	(自振口) 静岡県立浜松みをつくし特別支援学校 資金前渡者 白柳 恵美	0	公共料金等引落
浜松磐田 信用金庫 中川支店	無利息型 普通預金	2108795	静岡県立浜松みをつくし特別支援学校 奨励費 代理受領者 白柳 恵美	0	就学奨励費
残高合計				10,000	

郵 券 等 受 払 調

(令和5年9月30日現在)

(単位：枚、円)

区分	種類	令 和 4 年 度						令 和 5 年 度								摘要
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵券	10円券	172	1,720			24	240	148	1,480			15	150	133	1,330	公務連絡用
	63円券	46	2,898			46	2,898	0	0					0	0	
	84円券	97	8,148	140	11,760	148	12,432	89	7,476	400	33,600	231	19,404	258	21,672	
	100円券	67	6,700			10	1,000	57	5,700			5	500	52	5,200	
	120円券	148	17,760			24	2,880	124	14,880			21	2,520	103	12,360	
計		37,226		11,760		19,450		29,536		33,600		22,574		40,562		

材 料 品 受 払 調

(令和5年9月30日現在)

区 分 品 名	令 和 4 年 度						令 和 5 年 度								摘要	
	繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高			
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額		
木材	個	円	個	円	個	円	個	円	個	円	個	円	個	円	個	円
			90	70,388	90	70,388	0	0	122	98,241	122	98,241	0	0		
ビーズ	セット	円	セット	円	セット	円	セット	円	セット	円	セット	円	セット	円	セット	円
			1	5,940	1	5,940	0	0					0	0		
紙バンド	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円
			34	29,342	34	29,342	0	0	14	12,012	14	12,012	0	0		
布	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円
			40	70,574	40	70,574	0	0	70	54,055	70	54,055	0	0		
革	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円
							0	0	1	34,560	1	34,560	0	0		
計		0		176,244		176,244		0		198,868		198,868		0		

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額（円）		
					令和3年度	令和4年度	左のうち、令和3年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		184,800	
	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		325,451	
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		75,443,975	
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費		14,169,741	
計					0	90,123,967	0
(14) 工事請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		1,540,000	
計					0	1,540,000	0
(16) 公有財産購入費							
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		1,528,175	
計					0	1,528,175	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		16,000	
計					0	16,000	0
(21) 補償、補填及び賠償金							
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和5年9月30日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額（円）	
						左のうち、令和4年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	77,000	
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	27,071,788	
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費	5,790,347	
計					32,939,135	0
(14) 工事請負費						
計					0	0
(16) 公有財産購入費						
計					0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	796,400	
計					796,400	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	20,000	
計					20,000	0
(21) 補償、補填及び賠償金						
計					0	0

委 託 料 に 関 す る 調

(令和4年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
7	段差解消機保守点検業務	広洋産業(株)	990,000	990,000		990,000	随契	R4.4.6 R4.5.31 R4.6.30 R4.7.29 R4.8.31 R4.9.30 R4.10.31 R4.11.30 R4.12.27 R5.1.31 R5.2.28 R5.3.31 R5.4.28 小計	60,500 60,500 60,500 60,500 60,500 60,500 60,500 60,500 60,500 60,500 60,500 324,500 60,500 990,000	保守及び建築基準法第12条点検業務	随契1号(少額)	
8	可燃物収集運搬処分業務	南西遠デトリ	収集・運搬料5,500/回 処分手数料12.54/kg	収集・運搬料5,500/回 処分手数料12.54/kg		収集・運搬料5,500/回 処分手数料12.54/kg	指名	R4.4.7 R4.5.31 R4.6.30 R4.7.29 R4.8.31 R4.9.30 R4.10.31 R4.11.30 R4.12.27 R5.1.31 R5.2.28 R5.3.31 R5.4.28 小計	101,869 124,162 140,048 125,273 52,063 131,330 129,675 128,007 126,728 106,428 118,870 145,992 1,430,445	可燃物収集運搬処分業務	単価契約 浜松湖北高	
9	グリストアップ清掃及び産廃収集運搬処分業務	榊大洋サービス	36,850	36,850		36,850	随契	R4.6.1 R4.8.31	R4.7.6	36,850	グリストアップ清掃及び廃油等収集運搬処分業務	随契1号(少額)
10	通学バス運行管理業務	浜松バス㈱	13,817,100	13,556,400		13,556,400	一般	R4.8.29 R4.12.28	R4.9.30 R4.10.31 R4.11.30 R4.12.27 R5.1.31 小計	343,200 3,432,000 3,432,000 3,432,000 2,917,200 13,556,400	通学の迎車業務(感染症対策2学期増便)	
11	グリストアップ清掃及び産廃収集運搬処分業務	榊大洋サービス	36,850	36,850		36,850	随契	R4.10.5 R4.12.28	R5.10.31	36,850	グリストアップ清掃及び廃油等収集運搬処分業務	随契1号(少額)
12	産業廃棄物収集・運搬	エス・ライナー㈱	22,000	22,000		22,000	随契	R4.11.7 R5.1.31	R5.1.5	22,000	木くず(8㎡)収集運搬	随契1号(少額)
13	産業廃棄物処分	エコプラント㈱	74,800	74,800		74,800	随契	R4.11.7 R5.2.28	R5.2.15	74,800	木くず(8㎡)処分	随契1号(少額)
14	通学バス運行管理業務	浜松バス㈱	8,919,900	8,751,600		8,751,600	一般	R5.1.4 R5.3.31	R5.2.28 R5.3.31 R5.4.28 小計	2,917,200 3,260,400 2,574,000 8,751,600	通学の迎車業務(感染症対策3学期増便)	
15	産業廃棄物収集・運搬	エス・ライナー㈱	14,850	14,850		14,850	随契	R5.1.11 R5.2.28	R5.3.6	14,850	廃プラ他(3㎡)収集運搬	随契1号(少額)
16	産業廃棄物収集・運搬	エコプラント㈱	28,050	28,050		28,050	随契	R5.1.11 R5.3.31	R5.3.31	28,050	廃プラ他(3㎡)処分	随契1号(少額)
17	グリストアップ清掃及び産廃収集運搬処分業務	榊大洋サービス	36,850	36,850		36,850	随契	R4.2.1 R4.3.31	R5.3.10	36,850	グリストアップ清掃及び廃油等収集運搬処分業務	随契1号(少額)
事務関係計		17件								90,123,967		
合計		17件								90,123,967		
参考1	消防用設備等保守点検業務	静岡県消防設備保守点検業協同組合		18,920,000		18,920,000		R4.4.1 R5.3.31			消防用設備等保守点検業務	浜松湖北高
参考2	自家用電気工作物保安管理業務	遠鉄アシスト㈱		4,359,960		4,359,960		R4.4.1 R5.3.31			電気工作物保安管理業務	浜松城北工業高
参考3	建築物環境衛生管理業務	榊シービーエム		7,773,260		7,773,260		R4.4.1 R5.3.31			建築物環境衛生管理業務	浜松西高
参考4	プール浄化装置保守点検業務	清化工業㈱		998,800		998,800		R4.4.8 R4.11.30			プール浄化装置保守点検業務	浜松東高
参考5	浜松北地区県立学校定期点検業務	榊山口一級建築士事務所		2,200,000		2,200,000		R4.11.1 R5.2.28			建築基準法第12条点検業務	浜北西高
合計		5件										

委託料に関する調

(令和5年度)
(令和5年9月30日現在)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 機械警備業務	セコム㈱	856,350	666,050		666,050	随契	R3.2.22) R6.9.30	R5.5.31 R5.6.30 R5.7.31 R5.8.31 R5.9.29 小計	(388,850) 15,400 15,400 15,400 15,400 15,400 77,000	事務室等機械警備(防犯、火災監視)業務	随契1号(少額) R2長期
2	給食業務	㈱いづみ食品	31,607,840	31,409,840		31,409,840	一般	R3.4.1) R5.7.31	R5.5.31 R5.6.30 R5.7.31 R5.8.31 小計	(26,922,720) 1,121,780 1,121,780 1,121,780 1,121,780 4,487,120	学校給食調理・配膳業務	R3長期
3	通学バス運行管理業務	遠州鉄道㈱	205,451,400	99,150,157	▲1,049,249	98,100,908	一般	R3.4.1) R6.3.31	R5.5.31 R5.6.30 R5.7.31 R5.8.31 R5.9.29 小計	(65,575,476) 2,710,452 2,710,452 2,710,452 2,710,452 2,710,452 13,552,260	通学・校外活動の送迎業務	R3長期 コース変更に伴う距離制運賃の減
4	通学バス運行管理業務	遠州鉄道㈱	27,357,770	20,899,998		20,899,998	一般	R4.4.1) R6.3.31	R5.5.31 R5.6.30 R5.7.31 R5.8.31 R5.9.29 小計	(11,503,258) 783,060 783,060 783,060 783,060 783,060 3,915,300	通学・校外活動の送迎業務(東循環)	R4長期
5	通学バス運行管理業務	浜松バス㈱	8,236,800	8,078,400		8,078,400	一般	R5.4.1) R5.7.31	R5.5.31 R5.6.30 R5.7.31 R5.8.31 小計	1,683,000 2,244,000 2,468,400 1,683,000 8,078,400	通学の迎車業務(感染症対策1学期増便)	
6	エレベーター保守点検業務	㈱日立ビルシステム中部支社	2,550,002	2,323,200		2,323,200	随契	R5.4.1) R6.3.31	R5.5.31 R5.6.30 R5.7.31 R5.8.31 R5.9.29 小計	193,600 193,600 193,600 193,600 193,600 968,000	遠隔監視及び点検調整修理業務	随契2号(不適)
7	段差解消機保守点検業務	㈱インガミ	836,000	836,000		836,000	随契	R5.4.10) R6.3.29	R5.5.31 R5.6.30 R5.7.31 R5.8.31 R5.9.29 小計	66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 330,000	保守及び建築基準法第12条点検業務	随契1号(少額)
8	可燃物収集運搬処分業務	㈱西遠デトリリー	収集・運搬料 4,840/回 処分手数料 12.54/kg	収集・運搬料 4,730/回 処分手数料 12.54/kg		収集・運搬料 4,730/回 処分手数料 12.54/kg	指名	R5.4.10) R6.3.29	R5.5.31 R5.6.30 R5.7.31 R5.8.31 R5.9.29 小計	81,145 108,707 120,111 103,087 42,755 455,805	可燃物収集運搬処分業務	単価契約
9	ｸﾞﾘｽﾄﾗｯﾌﾟ 清掃及び産廃収集運搬処分業務	㈱大洋サービス	36,850	36,850		36,850	随契	R5.6.1) R5.8.31	R5.7.19	36,850	ｸﾞﾘｽﾄﾗｯﾌﾟ 清掃及び産廃等収集運搬処分業務	随契1号(少額)
10	給食業務	㈱いづみ食品	43,722,118	37,382,400		37,382,400	一般	R5.8.1) R8.7.31	R5.9.29 小計	(0) 1,038,400 1,038,400	学校給食調理・配膳業務	R5長期
11	産業廃棄物収集運搬処分業務	㈱リサイクルクリーン	97,106	97,106		97,106	随契	R5.9.27) R5.3.29			廃プラ他(8㎡)収集運搬処分	随契1号(少額)
事務関係計		11件								32,939,135		
合計		11件								32,939,135		
参考1	消防用設備等保守点検業務	静岡県消防設備保守点検業協同組合		19,030,000		19,030,000		R5.4.1) R6.3.31			消防用設備等保守点検業務	浜松湖北高
参考2	自家用電気工作物保安管理業務	遠鉄アシスト㈱		4,625,280		4,625,280		R5.4.1) R6.3.31			電気工作物保安管理業務	浜松城北工業高
参考3	建築物環境衛生管理業務	㈱シービーエム		7,773,260		7,773,260		R5.4.1) R6.3.31			建築物環境衛生管理業務	浜松西高
参考4	プール浄化装置保守点検業務	清化工業㈱		998,800		998,800		R5.4.10) R5.11.30			プール浄化装置保守点検業務	浜松東高
合計		4件										

負担金支出調

(令和4年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国特別支援学校知的障害教育校長会会費	全国特別支援学校知的障害教育校校長会	会則	学校の管理運営に関する調査研究	円 11,000	R4.7.11
2	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会費	東海地区特別支援学校知的障害教育校校長会	規則	教育の充実・改善の推進及び教育上の調査研究	5,000	R4.7.22
計		2 件	/	/	16,000	/

負担金支出調

(令和5年度)

(令和5年9月30日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国特別支援学校知的障害教育校長会会費	全国特別支援学校知的障害教育校校長会	会則	学校の管理運営に関する調査研究	円 15,000	R5.7.20
2	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会費	東海地区特別支援学校知的障害教育校校長会	規則	教育の充実・改善の推進及び教育上の調査研究	5,000	R5.7.28
計		2 件	/	/	20,000	/

土 木 工 事 調

(令和4年度)

整理 番号	予算科目	工 事 名	工 事 箇 所	当 設 計 金 額	契 約 金 額			契約 締結 方法	受 注 者	着 手 完成(予定) 年 月 日	支 出 済 額	工 事 概 要	摘 要
					当 初 額	変 更 増 減 額	計						
1	教育管理費	令和4年度静岡県立浜松みをつくし特別支援学校農園改修工事	浜松市北区細江町広岡地内	円 1,540,000	円 1,540,000	円 0	円 1,540,000	随契	鶴見建設(株)	R4.12.19 R5.1.30	円 1,540,000	現況地盤掘削 耕作土搬入 排水用集水升 角300×300 H450	随契1号 (少額) 令達 R4.12.6 支払 R5.3.13
		合 計	1 件	1,540,000	1,540,000	0	1,540,000				1,540,000		

令和5年度 該当なし

公 有 財 産 調

(令和4年度)

区分	令和4年3月31日現在		増		減		令和5年3月31日現在		摘要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産	/	千円 1,517,442	/	千円 164	/	千円 0	/	千円 1,517,606	
土地	㎡ 34,844.32	664,957					㎡ 34,844.32	664,957	
建物	㎡ 4,298.53 11,666.53	509,291					㎡ 4,298.53 11,666.53	509,291	
工作物	個 99	343,194	1	164			個 100	343,358	
公有財産に 準ずるもの	/	154	/	0	/	0	/	154	
電話加入権	件 8	154					件 8	154	

令和5年度中 増減なし

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和5年度)

(令和5年9月30日現在)

区分	事業名又は契約名	内容	契約額	(契約額の年度別内訳)						
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
長期継続契約	機械警備業務	機械警備業務 (契約日) 令和3年2月8日	666,050	円 (浜北特支執行) 19,250	円 184,800	円 184,800	円 184,800	円 92,400	円	円
	給食業務	給食業務 (契約日) 令和3年4月1日	31,409,840		13,461,360	13,461,360	4,487,120			
	通学バス輸送業務	通学バス輸送 4台 (契約日) 令和3年4月1日	98,100,908		33,050,052	32,525,424	32,525,432			
	通学バス輸送業務	通学バス輸送 1台 (契約日) 令和4年4月1日	20,899,998			11,503,258	9,396,740			
	給食業務	給食業務 (契約日) 令和5年7月19日	37,382,400				8,307,200	12,460,800	12,460,800	4,153,600

行政財産貸付・使用許可願

(令和5年9月30日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量 又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用 許可期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使用 許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	浜松市北区 細江町広岡 1	学校敷地	学校敷地	1.6 m ²	—	免除	R3.4.1) R6.3.31	細江警察署長	信号機敷地
2	土地	学校敷地	浜松市北区 細江町広岡 1	学校敷地	学校敷地	6 本	1,500	9,000	R3.4.1) R8.3.31	中部電力パワーグ リット㈱浜松営業 所細江サービスス テーション所長	電柱4本 支線2本
3	土地	学校敷地	浜松市北区 細江町広岡 1	学校敷地	学校敷地	1.0 m ²	—	免除	R3.4.1) R8.3.31	浜松市長	道路照明灯 敷地
4	土地	学校敷地	浜松市北区 細江町広岡 1	学校敷地	学校敷地	213.20 m ²	—	免除	R3.4.1) R8.3.31	浜松市長	水路敷地
5	土地	学校敷地	浜松市北区 細江町広岡 1	学校敷地	学校敷地	52.59 m ²	—	免除	R3.4.1) R8.3.31	浜松市長	道路敷地
合計								9,000			

主 要 備 品 調

(令和5年9月30日現在)

整理 番号	区 分		品 名 ・ 規 格	利 用 状 況	購入年月	購入金額 (円)
	大・中	小				
1	1-13	その他の厨房器具	真空冷却機 三浦工業 CMJ-20QE	給食実施日(年間194日)調理用	R 3. 3	3,168,330
2	2-1	パーソナルコンピュータ(一式)	ノートパソコン・サーバー他 富士通 LIFEBOOK A5510/E	月1日(年間10日) 生活単元学習等	R 3. 3	2,535,940
3	1-13	その他の厨房器具	コンビオーブン アイホー ACO-102ES	給食実施日(年間194日)調理用	R 3. 3	1,985,467
4	1-13	その他の厨房器具	ラックコンバタイプ自動食器洗浄機 日本洗浄機 SDR310GSH	給食実施日(年間194日)調理用	R 3. 3	1,967,933
5	10-7	鍵盤楽器	グランドピアノ ヤマハ C5	学期3日(年間10日)式典、行事用	H21. 3	1,587,547
6	1-13	その他の厨房器具	電気式食器消毒保管機 アイホー EW-2004N特	給食実施日(年間194日)調理用	R 3. 3	1,479,192
7	1-13	その他の厨房器具	ステンレス製回転釜 桐山工業 KIFSD2X-30	給食実施日(年間194日)調理用	R 3. 3	1,384,526
8	1-13	その他の厨房器具	ステンレス製回転釜 桐山工業 KIFSD2X-30	給食実施日(年間162日)調理用	R 3. 3	1,384,526
9	1-13	その他の厨房器具	電気式食器消毒保管機 アイホー EW-1504N特	給食実施日(年間194日)調理用	R 3. 3	1,104,686
10	1-13	その他の厨房器具	3槽シンク アイホー S3-207BDB	給食実施日(年間194日)調理用	R 3. 3	816,310
11	1-13	冷蔵(凍)庫	パススルー冷蔵庫 ホザキ電機 HR-120CA-ML-4G4G	毎日(年間365日) 食材等保管用	R 3. 3	805,640
12	1-13	その他の厨房器具	下処理用3槽シンク アイホー S3-187BDVB	給食実施日(年間194日)調理用	R 3. 3	788,436
13	1-13	その他の厨房器具	ガス式立体炊飯器 アイホー RMG-154R	給食実施日(年間194日)調理用	R 3. 3	728,970
14	1-13	その他の厨房器具	ガス式立体炊飯器 アイホー RMG-154R	給食実施日(年間194日)調理用	R 3. 3	728,970
15	1-4	移動書庫	63型クランク オカムラ	毎日(年間365日) 書類保管用	R 3. 3	712,800
16	1-13	その他の厨房器具	器具消毒保管機 アイホー EWK-1004N特	給食実施日(年間194日)調理用	R 3. 3	706,321
17	1-13	その他の厨房器具	器具消毒保管機 アイホー EMK-1004N	給食実施日(年間194日)調理用	R 3. 3	612,568
18	1-13	その他の厨房器具	包丁・まな板消毒保管機 アイホー ES-254N特	給食実施日(年間194日)調理用	R 3. 3	553,322
19	7-1	除草用機器	草刈機乗用 やまびこ RM831/B	年4回(年間12日) グラウンド除草用	R 4. 1	543,840
20	1-7	製本機	丁合機 デュプロ DFC-100N II	週1日(年間40日) 授業、会議資料用	R 3. 3	495,000

職 員 調

(令和5年9月30日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤続年数	摘 要
1	校長	白柳 恵美	総 括	□□□	□年 □月	□□□
2	副校長	荒木 敬一郎	総 括	□□□	□年 □月	□□□
3	教 頭	勝野 充生	総 括	□□□	□年 □月	□□□
4	事務長	袴田 早苗	事務総括	□□□	□年 □月	□□□
5	教 諭	堀野 真吾	高等部	□□□	□年 □月	□□□
6	教 諭	鈴木 康予	高等部	□□□	□年 □月	□□□
7	教 諭	寺田 結佳	高等部	□□□	□年 □月	□□□
8	教 諭	中安 克英	高等部	□□□	□年 □月	□□□
9	教 諭	高木 秀一	高等部	□□□	□年 □月	□□□
10	教 諭	久野 香織	中学部	□□□	□年 □月	□□□
11	教 諭	土屋 彰子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
12	教 諭	築城 優治	中学部	□□□	□年 □月	□□□
13	教 諭	竹内 啓司	高等部	□□□	□年 □月	□□□
14	教 諭	鈴木 満彦	中学部	□□□	□年 □月	□□□
15	教 諭	高木 龍治	高等部	□□□	□年 □月	□□□
16	教 諭	泉澤 俊恵	中学部	□□□	□年 □月	□□□
17	教 諭	榊原 あゆみ	中学部	□□□	□年 □月	□□□
18	教 諭	柿澤 あかね	高等部	□□□	□年 □月	□□□
19	教 諭	藤田 京子	高等部	□□□	□年 □月	□□□
20	教 諭	山田 けい子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
21	教 諭	宮本 晴子	高等部	□□□	□年 □月	□□□
22	教 諭	伊藤 昌明	小学部	□□□	□年 □月	□□□
23	教 諭	村田 典加	中学部	□□□	□年 □月	□□□
24	教 諭	西尾 洋子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
25	教 諭	山本 真理子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
26	教 諭	山本 敏士	小学部	□□□	□年 □月	□□□
27	教 諭	齋 藤 香	小学部	□□□	□年 □月	□□□
28	教 諭	鈴木 順子	中学部	□□□	□年 □月	□□□
29	教 諭	楠 真知子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
30	教 諭	中嶋 祥子	中学部	□□□	□年 □月	□□□
31	教 諭	深川 彰久	高等部	□□□	□年 □月	□□□
32	教 諭	福田 賢太	中学部	□□□	□年 □月	□□□
33	教 諭	窪前 和孝	高等部	□□□	□年 □月	□□□
34	教 諭	國松 美穂	小学部	□□□	□年 □月	□□□
35	教 諭	大石 恵子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
36	教 諭	中川 千絵子	高等部	□□□	□年 □月	□□□

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤続年数	摘要
37	教諭	田中 祥恵	高等部	□□□	□年 □月	□□□
38	教諭	高橋 史江	高等部	□□□	□年 □月	□□□
39	教諭	大場 裕史	高等部	□□□	□年 □月	□□□
40	教諭	中村 剛	高等部	□□□	□年 □月	□□□
41	教諭	宮本 仁美	小学部	□□□	□年 □月	□□□
42	教諭	田中 絢子	高等部	□□□	□年 □月	□□□
43	教諭	高橋 僚兵	小学部	□□□	□年 □月	□□□
44	教諭	加藤 公彦	中学部	□□□	□年 □月	□□□
45	教諭	近藤 直人	高等部	□□□	□年 □月	□□□
46	教諭	塚本 直子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
47	教諭	松本 絵梨佳	小学部	□□□	□年 □月	□□□
48	教諭	山本 絢香	小学部	□□□	□年 □月	□□□
49	教諭	早川 桂	中学部	□□□	□年 □月	□□□
50	教諭	式地 直之	小学部	□□□	□年 □月	□□□
51	教諭	西村 謙一	中学部	□□□	□年 □月	□□□
52	教諭	後藤 頼香	中学部	□□□	□年 □月	□□□
53	教諭	中川 友実	小学部	□□□	□年 □月	□□□
54	教諭	太田 紗弥佳	中学部	□□□	□年 □月	□□□
55	教諭	東 静香	高等部	□□□	□年 □月	□□□
56	教諭	前田 綾音	小学部	□□□	□年 □月	□□□
57	教諭	名波 未来	中学部	□□□	□年 □月	□□□
58	教諭	山下 勇人	小学部	□□□	□年 □月	□□□
59	教諭	秋野 かざみ	小学部	□□□	□年 □月	□□□
60	教諭	飯塚 友菜	小学部	□□□	□年 □月	□□□
61	教諭	藤谷 里香	高等部	□□□	□年 □月	□□□
62	教諭	石田 絵理	小学部	□□□	□年 □月	□□□
63	教諭	栗田 麻実	高等部	□□□	□年 □月	□□□
64	教諭	山本 有紀	高等部	□□□	□年 □月	□□□
65	教諭	朝倉 千景	小学部	□□□	□年 □月	□□□
66	教諭	高橋 ちひろ	中学部	□□□	□年 □月	□□□
67	教諭	河合 瑞貴	高等部	□□□	□年 □月	□□□
68	教諭	中村 廉	中学部	□□□	□年 □月	□□□
69	教諭	望月 信吾	小学部	□□□	□年 □月	□□□
70	教諭	鈴木 千華	小学部	□□□	□年 □月	□□□
71	教諭	望月 さやか	小学部	□□□	□年 □月	□□□
72	教諭	松澤 賢	高等部	□□□	□年 □月	□□□
73	教諭	松居 愛奈	中学部	□□□	□年 □月	□□□
74	教諭	高塚 友美	高等部	□□□	□年 □月	□□□
75	教諭	二俣 皓亮	小学部	□□□	□年 □月	□□□

整理 番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤続年数	摘 要
76	教諭	上田 翼	小学部	□□□	□年 □月	□□□
77	教諭	石川 羽純	小学部	□□□	□年 □月	□□□
78	教諭	伊藤 隆太	高等部	□□□	□年 □月	□□□
79	教諭	河嶋 佑衣	小学部	□□□	□年 □月	□□□
80	教諭	川 隅 董	小学部	□□□	□年 □月	□□□
81	教諭	中村 美希	高等部	□□□	□年 □月	□□□
82	教諭	吉山 優芽菜	小学部	□□□	□年 □月	□□□
83	教諭	根方 孔暉	高等部	□□□	□年 □月	□□□
84	教諭	守田 亮介	高等部	□□□	□年 □月	□□□
85	教諭	青木 正美	小学部	□□□	□年 □月	□□□
86	教諭	小椋 拓実	中学部	□□□	□年 □月	□□□
87	教諭	太田 知秀	高等部	□□□	□年 □月	□□□
88	教諭	三谷 涼華	高等部	□□□	□年 □月	□□□
89	教諭	杉崎 真帆	高等部	□□□	□年 □月	□□□
90	教諭	志小田 美宇	小学部	□□□	□年 □月	□□□
91	教諭	吉 沢 歩	小学部	□□□	□年 □月	□□□
92	教諭	相羽 翔太	小学部	□□□	□年 □月	□□□
93	教諭	菅 実 紀	小学部	□□□	□年 □月	□□□
94	養護教諭	砂川 蘭人	養 護	□□□	□年 □月	□□□
95	養護教諭	齋藤 未結	養 護	□□□	□年 □月	□□□
96	栄養教諭	菅沼 純子	給 食	□□□	□年 □月	□□□
97	主 査	本間 ひとみ	庶 務	□□□	□年 □月	□□□
98	主 査	中島 暁子	会 計	□□□	□年 □月	□□□
99	主 任	金子 友二	管 財	□□□	□年 □月	□□□
平均年数					1年 10月	

職 員 調

臨時・非常勤職員

(令和5年9月30日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤続年数	摘 要
1	教諭(任)	稲吉 智美	小学部	□□□	□年 □月	□□□
2	教諭(任)	柄澤 利恵	小学部	□□□	□年 □月	□□□
3	教諭(任)	澤田 成美	高等部	□□□	□年 □月	□□□
4	教諭(任)	良知 なつ美	高等部	□□□	□年 □月	□□□
5	教諭(任)	金原 匠	高等部	□□□	□年 □月	□□□
6	教諭(任短)	政本 清美	中学部	□□□	□年 □月	□□□
7	教諭(臨)	新村 奈津	小学部	□□□	□年 □月	□□□
8	教諭(臨)	片桐 久枝	高等部	□□□	□年 □月	□□□
9	教諭(臨)	川合 真由子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
10	教諭(臨)	河合 真輝	中学部	□□□	□年 □月	□□□
11	教諭(臨)	新村 遼太郎	小学部	□□□	□年 □月	□□□
12	教諭(臨)	本多 拓也	小学部	□□□	□年 □月	□□□
13	教諭(臨)	大谷 公子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
14	教諭(臨)	稲垣 京華	小学部	□□□	□年 □月	□□□
15	教諭(臨)	高木 新太	高等部	□□□	□年 □月	□□□
16	教諭(臨)	石塚 達也	高等部	□□□	□年 □月	□□□
17	教諭(臨)	奥山 晃士	小学部	□□□	□年 □月	□□□
18	教諭(臨)	刀澤 希与恵	小学部	□□□	□年 □月	□□□
19	教諭(臨)	野末 真彬	高等部	□□□	□年 □月	□□□
20	非常勤講師	安田 愛子	看 護	□□□	□年 □月	□□□
21	非常勤講師	吉國 香苗	看 護	□□□	□年 □月	□□□
22	非常勤嘱託員	増井 文音	事務補助	□□□	□年 □月	□□□
23	非常勤労務職員	長谷 元博	用 務	□□□	□年 □月	□□□
24	非常勤労務職員	栗田 一一	用 務	□□□	□年 □月	□□□
25	非常勤労務職員	岩崎 和久	バス介助 コロナ対応	□□□	□年 □月	□□□
26	非常勤労務職員	浅岡 明美	バス介助	□□□	□年 □月	□□□
27	非常勤労務職員	山下 すゞ奈	バス介助	□□□	□年 □月	□□□
28	非常勤労務職員	赤谷 栄子	バス介助	□□□	□年 □月	□□□
29	非常勤労務職員	齊藤 浩子	バス介助	□□□	□年 □月	□□□
30	非常勤労務職員	高木 かず子	コロナ対応	□□□	□年 □月	□□□
31	非常勤労務職員	杉浦 雅子	コロナ対応	□□□	□年 □月	□□□
32	非常勤労務職員	影山 あゆ美	コロナ対応	□□□	□年 □月	□□□
33	学校医	山田 克己	内科	□□□	□年 □月	□□□
34	学校医	西村 香澄	眼科	□□□	□年 □月	□□□
35	学校医	今井 篤志	耳鼻科	□□□	□年 □月	□□□
36	学校医	牛田 健二郎	歯科	□□□	□年 □月	□□□
37	学校医	太田 千恵	歯科	□□□	□年 □月	□□□
38	学校薬剤師	牧田 道明	薬剤師	□□□	□年 □月	□□□
39	健康管理医	名倉 康雄	産業医	□□□	□年 □月	□□□

職員の年齢調

(令和5年9月30日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上30歳未満	19人	
30歳以上40歳未満	33人	
40歳以上50歳未満	21人	
50歳以上56歳未満	17人	
56歳以上61歳未満	9人	
61歳以上	0人	
計	99人	平均年齢 40.10歳

健 康 管 理

1 令和4年度受診状況

区分	内 容
受 診 状 況	受診者数 84 人
	職員数 84 人
受 診 率	100 %
県平均受診率	100 %

(1) 未受診の理由

2 令和5年度在籍者の健康管理区分結果

健康管理区分			人数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0 人
B1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0 人
B2		要経過観察	0 人
C1	勤務をほぼ正常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	0 人
C2		要経過観察	0 人
D1	平常の勤務で良い。	要 治 療	21 人 (21)
D2		要経過観察	5 人 (5)
D3		医 療 不 要	65 人 (65)
区 分 者 計			91 人 (91)
未 区 分 者 数			8 人 (8)
合 計			99 人 (99)

(1) 管理区分A～C 2 該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア 人

イ 人

ウ 人

エ 人